

週刊文春

9月19日号 定価380円



島の工房で 鉄と向き合う 宮崎春生「野鍛冶」

みやざき・はるき 一九八五年長崎県生まれ。福岡県の大庭鍛冶工場で修業後二〇〇九年に福江島で宮崎鍛冶屋を開く。椿包丁などの商品は公式HPのオンラインショップでも購入可能。好きなタイプは「安室奈美恵さん。モノを創る姿勢が素敵だと思います。何事にもひたむきな女性が好きです」

野鍛冶とは、鉄を鍛えて農具や包丁などの生活で使う道具を作る職人のこと。高校生の時に長崎・五島列島の福江に引っ越してきた宮崎春生さん(28)は、農業を始めた父の影響でこの仕事を知り、将来の道に選んだ。「高校卒業と同時に、福岡の大庭利男師匠のところへ弟子入り志願に行きましたが、最初は門前払いでした。覚悟を解ってもらおうと、島で使われなくなっていた工房を買い取って「開業場所も用意しました」と半ば押し

かけるように弟子にしていたきました」高温の炉で鉄を熱し、金床に槌を振り下ろして打っては延ばす。力と繊細さが要求される作業の繰り返し。全国的にも職人が減っている厳しい世界だ。若者を預かるのを師匠がためらうのも無理はない。だが、宮崎さんは五年の修業をやり遂げた。「ある時、失敗してダメにした鉄を隠していたのを、師匠に見つかっただけです。さぞ叱られるだろうと思ったら、使い物にならないと

思った鉄を、師匠が包丁に仕上げて見せてくれた。失敗したことより、失敗を認められない自分が恥ずかしいんだと、どんな言葉で教わるよりも身に沁みて……。以来、だんだんと技術も上がっていききました」独立して四年目。島のシンボル、椿の花を刻印した椿包丁は予約待ちとなる人気だが、一日に三本が限界という丁寧な作業に変わりはなく。朝夕で体重が二キロ減ることもある過酷な仕事場で、今日も黙々と鉄を打つ。